

フレンズのつどい Part 33

男組 + 野村倫子

箏尺八ライブコンサート

◆ 今どきの新しい邦楽を

オリジナル曲で

文化の家 森のホール



ヤマトタケルノミコトの白鳥伝説をもとにした「白い翼」の舞台

フレンズのつどい Part 33
「男組+野村倫子 箏・尺八ライブコンサート」が7月25日文化の家森のホールで行われました。

邦楽は、普段の生活であまり聞いたことがないという方が多いと思いますが、最近は伝統音楽と西洋音楽が融合された「現代邦楽」という新しいスタイルが生まれて、より親しみやすいものになってきています。

今回公演のオリジナル曲は、すべて男組のメンバーによって作曲され、「現代邦楽」を聴く良い機会となりました。尺八の特別ゲストには野村峰山さんと野村幹人さん。そして野村倫子さん率いる木蓮の会の方も参加して、いよいよ幕が上がりました。

多彩な曲の数々を演奏

照明に照らされて琴を弾き始めたのは、椅子に座り、きらきら光るラメ入りの衣装を身にまとった女性とジャケットを着た男性たち。今まで琴と言えば「正座で着物」のイメージでしたので、ここにも西洋音楽と融合した新しいスタイルが感じられました。

演奏はまず今の時期にぴったりな「夏月(かづき)」から。琴と尺八の音色が会場いっぱいに響きました。

その後「泡沫(うたかた)ピーターパン」「さみだれ」と続き、次は趣向を変え野村倫子さん編曲でポップス集より「なだそうそう」と「花は咲く」の2曲が演奏されました。特に「花は咲く」では、みなさん物音ひとつたてず静かに聞きいってました。

また、次の曲の準備の間には、男組メンバーや尺八の野村さんなどが解説をまじえた楽しいトークをし、会場は和やかな雰囲気になりました。

休憩後は、まずヤマトタケルノミコトの白鳥伝説をもとにした「白い翼」。女性は白鳥をイメージした白い衣装で演奏しました。そして「春待ち人」と続き、「風の旅人」では尺八の力強い風を感じさせる音色が会場に響き渡り、コンサートの最後を締めくくりました。

アンコールは「パッヘルベルのカノン」。聞きなれた旋律も琴で弾くと違った味わいで楽しめました。

「このコンサートで少しでも邦楽に親しみをもっていただけなら…」と男組代表の水野利彦さんからの挨拶があり、終了しました。

期待されるフレンズの公演

フレンズの会主催のコンサートは毎回好評です。今回来られなかった方も、次回は是非足を運んでみてはいかがでしょうか。きっと今まで知らなかった世界に出会えることと思います。

お客様の声

☆ 良かった。ゆったりとした雅な世界に浸ることができました。

長久手市 男性

☆ 尺八とお琴の息が合っていました。もう少しリズムのある曲も聞きたかったです。

長久手市 女性

【2面に続く】